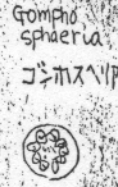


かわら版

1976.3.12

水質



湖心や橋川沖、北浦の

自浜から江川附近では、8月

に入ってからこのように、透明度が

1.4(湖心8月4日)もあってア

オコは少なくなりました。顕微鏡で

見ると、アオコに近い種類の

ゴンホスヘリアが多く見られま

す。昨年、一昨年の場合にも

このゴンガマ月中旬までは

見られましたが水温の上昇と

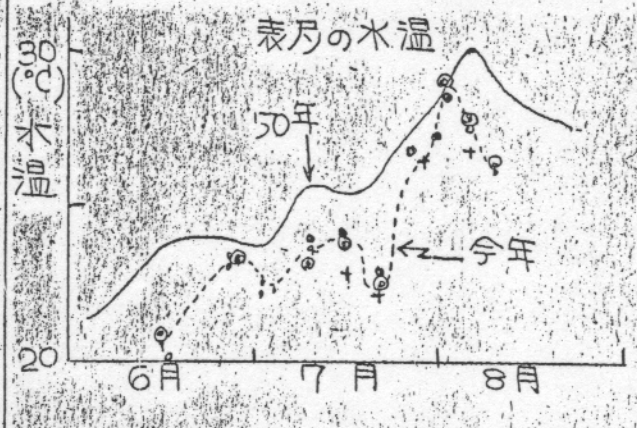
ともにアオコがなくなっていきまし

た。今年はやっおへれているよ

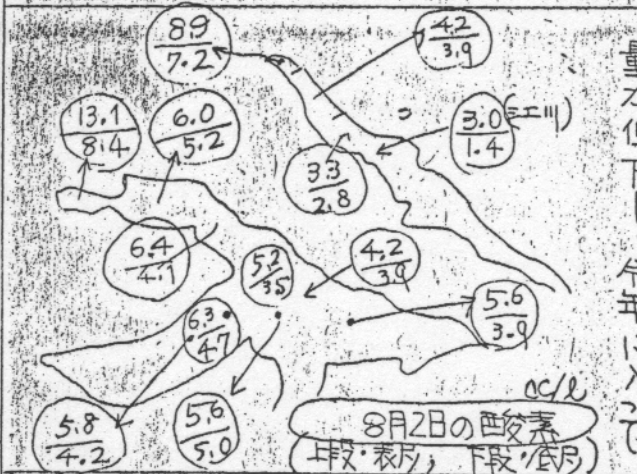
うのですが、この主な原因は水

温のゆいゆいです。下図は昨年

と今年の水温を比較したもので

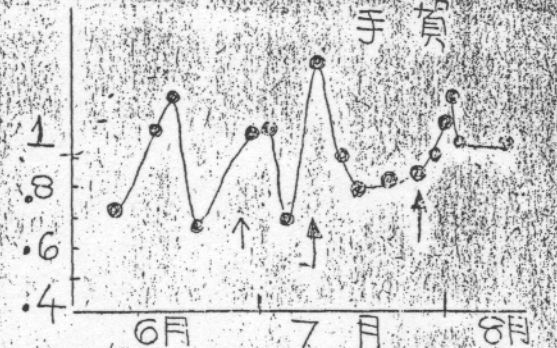
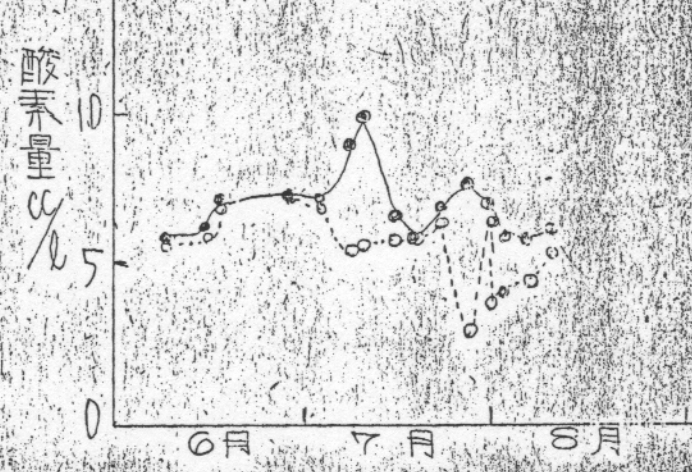
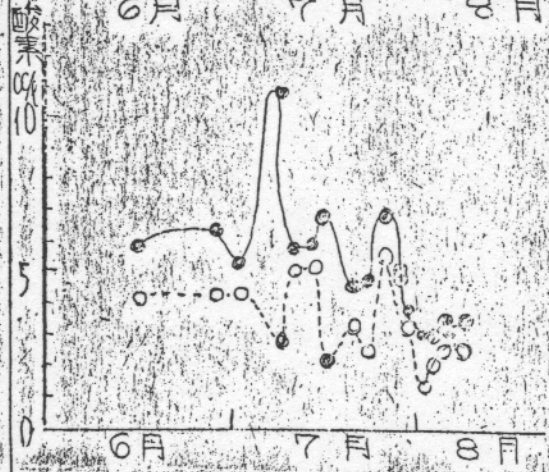
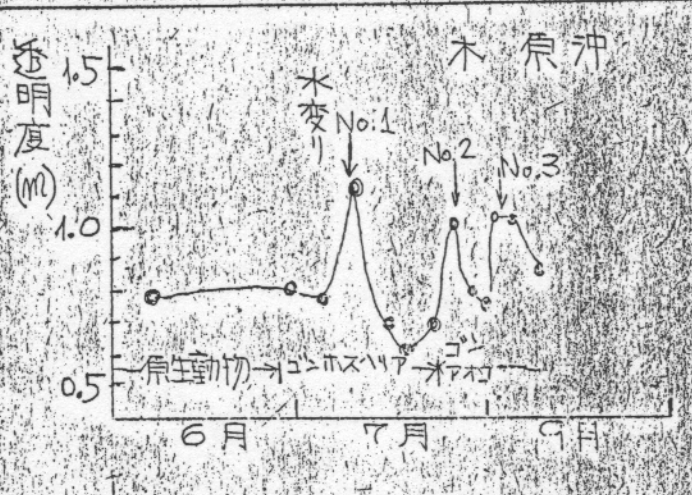
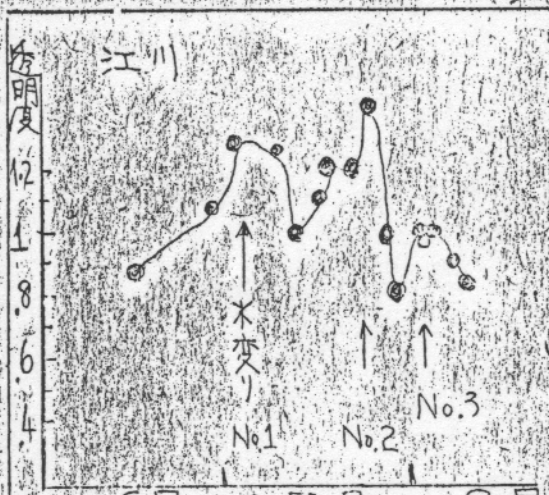


ですが、8月2日に50年に追いついた以外は、1〜4℃も低く、この差が水質にもはねかえっているようです。8月10日に過ぎると水温は下降する気配を示してきます。今年、異常に水温が上昇する心配はないように思われます。この点は、アオコの発生

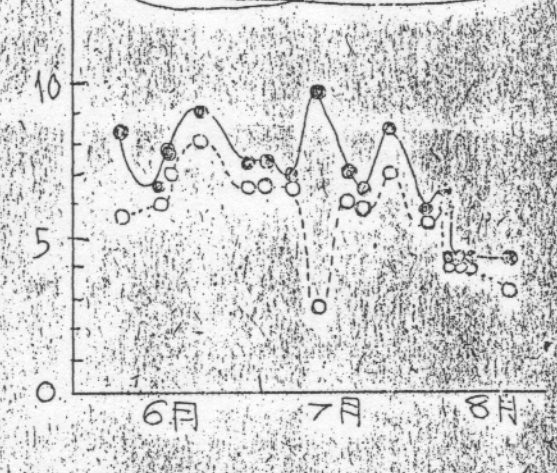


と、あてるとい方面では、大きいものと考えられます。しかし、樂觀できるのは、これまでにも述べたように、この数日のうちに急アオコが増え、奥部ではすでに二面アオコのついで、透明度も10センチにまで低下してしまします。8月2日を中心に酸素量が低下し、今年に入って

三回目の「水変り」が生じました。8月9日には、江川・三和を除いてほぼ回復したようでした。この様子も、木原・手賀・江川の3地点について図示したのが2ページのグラフです。木原については見ますと、7月10日・7月20日、8月2日の3回の「水変り」が認められます。7月10日頃を境としてゴンホスヘリアが増え、それ迄多かった原生動物が少なくなりました。また、7月20日頃からアオコが増えて来ます。この三回の水変りは比較的ゆるやかですが、いずれの場合にも底月の酸素量の低下を伴っており、特に8月2日のそれは今年最悪のもので、手賀・江川・三和・姥山では、底層



月・水・金は観測日です。結果は3時頃にわかります。02995-5-0324に向け合せて下さい。



では1.4-4.0表月でも 3.0-4.2%という低値が観測されています。6月2日以降数日間、江川、三和手賀では、上下月ともかなり低い値がみられました。その後、透明度が低下し、()したって植物プランクトンが増えて、酸素が生産されるので回復に向っているようです。しばらくは安定した状態がづくものと考えられます。8月下旬-9月上旬、10月4日の水変りが来る可能性がります。過去3年と比較すると軽いかもしれません。江川、三和手賀のような漁場は今後も油断大敵です。

